

(8) 海藻草類

1) 海藻草類（全般）

(ア) 調査概要

海藻草類（全般）の調査概要は、表 2-8-23 に示すとおりである。

表 2-8-23 海藻草類（全般）の調査概要

調査機関	沖縄県土木建築部港湾課	沖縄総合事務局
調査期間	夏季：令和元年 8 月 22 日、9 月 3, 24, 25 日 冬季：令和 2 年 1 月 17, 28 日、2 月 12, 13 日	令和 2 年 11 月 9、10、18～20 日
調査地点	図 2-8-4 に示すとおり	図 2-8-7 に示すとおり
調査方法	航空写真、今回計画等を踏まえ、海藻草類の分布概要を把握した。現地において、浅所では箱メガネを用いた船上からの目視観察もしくはマンタ法により、また、海面から海底が確認できない場所では、スポットチェック法に準じた手法により、海藻草類の分布状況（主な出現種と被度）等を把握した。	箱メガネによる船上目視観察とマンタ法による潜水目視観察により行い、調査範囲内で小型船を低速度で走らせながら、分布範囲の外縁や分布状況の変化点を確認し、その位置を随時船上より GNSS で記録し地図上に記入した。 また、同時に代表的なスポット調査点では潜水目視観察によって、藻場を構成する海藻草類の種類や生育被度を確認し、水中写真撮影を行った。



図 2-8-7 分布調査位置（令和 2 年 11 月）

(イ) 調査結果

海藻草類の出現状況及び地点状況は表 2-8-24、表 2-8-25 に、海藻草類の分布状況を図 2-8-8～図 2-8-11 に示すとおりである。

表 2-8-24 (1) 海藻草類の出現状況及び地点状況 (北部地域：夏季)

調査地点	St. S1	St. S2	St. S3
調査日	令和元年8月22日	令和元年8月22日	令和元年9月3日
緯度	26° 18. 516′	26° 19. 035′	26° 19. 227′
経度	127° 52. 512′	127° 53. 080′	127° 51. 825′
水深	2. 3m	1. 1m	1. 7m
底質概観	岩盤	礫、砂	砂
藻場被度	海草類	0%	10%
	ホンダワラ類	50%	0%
海藻類	主な出現種	ホンダワラ属 : 50%	リュウキュウスカモ : 10%
		ハイイカリ : 15%	マツバウミシヅクサ : 1%未満
		無節サゴモ類 : 15%	ホウバアマモ : 1%未満
浮泥	被度	-	20%
	堆積厚	0mm	1mm未満
食害生物の状況	なし	なし	なし
葉上の付着藻類	0%	5%未満	20%
葉枯れの被度	0%	5%未満	0%
特記事項	特になし	ホンダワラ類が被度5%未満で分布。	葉上もしくは露出した葉鞘に藍藻綱が付着。

調査地点	St. S4	St. S5
調査日	令和元年9月3日	令和元年9月3日
緯度	26° 18. 498′	26° 18. 770′
経度	127° 53. 127′	127° 53. 070′
水深	1. 3m	2. 1m
底質概観	岩盤	岩盤、礫
藻場被度	海草類	0%
	ホンダワラ類	70%
海藻類	主な出現種	ホンダワラ属 : 70%
		イノカ科 : 5%
		ラッパモク : 5%未満
浮泥	被度	5%未満
	堆積厚	1mm未満
食害生物の状況	なし	なし
葉上の付着藻類	0%	0%
葉枯れの被度	0%	0%
特記事項	特になし	特になし

表 2-8-24 (2) 海藻草類の出現状況及び地点状況 (南部地域：夏季)

調査地点		St. S6	St. S7	St. S8
調査日		令和元年9月24日	令和元年9月25日	令和元年9月25日
緯度		26° 10.855'	26° 11.458'	26° 11.384'
経度		127° 49.677'	127° 48.449'	127° 47.837'
水深		1.7m	2.6m	1.4m
底質概観		岩盤、砂	岩盤、転石、礫	転石、礫、砂
藻場被度	海草類	0%	0%	0%
	ホンダワラ類	30%	5%	5%未満
海藻類	主な出現種	ホンダワラ属 : 30%	微小紅藻類 : 10%	ホンダワラ属 : 5%未満
		無節サゴモ類 : 5%	無節サゴモ類 : 5%	サホテングサ属 : 1%未満
		サホテングサ属 : 1%未満	ホンダワラ属 : 5%	ウミチリ属 : 1%未満
浮泥	被度	5%未満	70%	15%
	堆積厚	1mm未満	1mm未満	1mm未満
食害生物の状況		なし	なし	なし
葉上の付着藻類		0%	5%	5%
葉枯れの被度		0%	40%	0%
特記事項		特になし	ホンダワラ藻場の構成種であるラッパモクが被度1%未満で分布。	特になし

表 2-8-24 (3) 海藻草類の出現状況及び地点状況 (北部地域：冬季)

調査地点		St. S1	St. S2	St. S3
調査日		令和2年1月28日	令和2年1月17日	令和2年1月17日
緯度		26° 18.516'	26° 19.035'	26° 19.227'
経度		127° 52.512'	127° 53.080'	127° 51.825'
水深		1.7m	1.3m	1.5m
底質概観		岩盤	礫、砂	砂
藻場被度	海草類	0%	10%	15%
	ホンダワラ類	5%	1%未満	0%
海藻類	主な出現種	ハイオキギ : 15%	マツバウミジグサ : 5%	ヘニアマモ : 15%
		ウミウチ類 : 10%	リュウキユウスガモ : 5%未満	リュウキユウスガモ : 1%未満
		ホンダワラ属 : 5%	ウミヒルモ : 5%未満	ホウハアマモ : 1%未満
浮泥	被度	-	20%	40%
	堆積厚	0mm	1~2mm	1mm未満
食害生物の状況		なし	なし	なし
葉上の付着藻類		0%	0%	20%
葉枯れの被度		0%	80%	20%
特記事項		特になし	ホンダワラ属が被度1%未満で分布。	ウミヒルモ、マツバウミジグサ、ウミジグサも被度1%未満で確認された。

調査地点		St. S4	St. S5
調査日		令和2年1月17日	令和2年1月28日
緯度		26° 18.498'	26° 18.770'
経度		127° 53.127'	127° 53.070'
水深		1.8m	2.7m
底質概観		岩盤	岩盤、礫
藻場被度	海草類	0%	0%
	ホンダワラ類	10%	5%未満
海藻類	主な出現種	イソカ科 : 5%	ホンダワラ属 : 5%未満
		ホンダワラ属 : 5%未満	ウミウチ類 : 5%未満
		ラッパモク : 5%未満	ラッパモク : 5%未満
浮泥	被度	5%未満	10%
	堆積厚	1mm未満	1mm未満
食害生物の状況		なし	なし
葉上の付着藻類		0%	0%
葉枯れの被度		0%	0%
特記事項		ホンダワラ属の多くは付着器及び数枚の葉を残し流出。	特になし

表 2-8-24 (4) 海藻草類の出現状況及び地点状況 (南部地域：冬季)

調査地点		St. S6	St. S7	St. S8
調査日		令和2年2月13日	令和2年2月12日	令和2年2月12日
緯度		26° 10.855'	26° 11.458'	26° 11.384'
経度		127° 49.677'	127° 48.449'	127° 47.837'
水深		2.1m	1.9m	1.7m
底質概観		岩盤、砂	岩盤、転石、礫	転石、礫、砂、岩盤
藻場被度	海草類	0%	0%	0%
	ホンダワラ類	60%	5%	5%
海藻類	主な出現種	ホタテワラ属 : 60%	微小紅藻類 : 25%	微小紅藻類 : 20%
		無節サゴモ類 : 5%未満	無節サゴモ類 : 10%	ホタテワラ属 : 5%
		微小紅藻類 : 5%未満	ホタテワラ属 : 5%	ガキケリ : 5%
浮泥	被度	5%未満	50%	20%
	堆積厚	1mm未満	1mm未満	1mm未満
食害生物の状況		なし	なし	なし
葉上の付着藻類		0%	5%	5%未満
葉枯れの被度		0%	20%	0%
特記事項		特になし	ホタテワラ藻場の構成種であるラップモクが被度1%未満で分布。	特になし

調査地点		St. S9
調査日		令和2年2月12日
緯度		26° 11.552'
経度		127° 46.344'
水深		1.3m
底質概観		岩盤
藻場被度	海草類	0%
	ホンダワラ類	80%
海藻類	主な出現種	ヒジキ : 70%
		ホタテワラ属 : 10%
		フクロリ : 5%未満
浮泥	被度	5%未満
	堆積厚	1mm未満
食害生物の状況		なし
葉上の付着藻類		0%
葉枯れの被度		0%
特記事項		調査地点は、局所的に被度80%の位置に設定した。

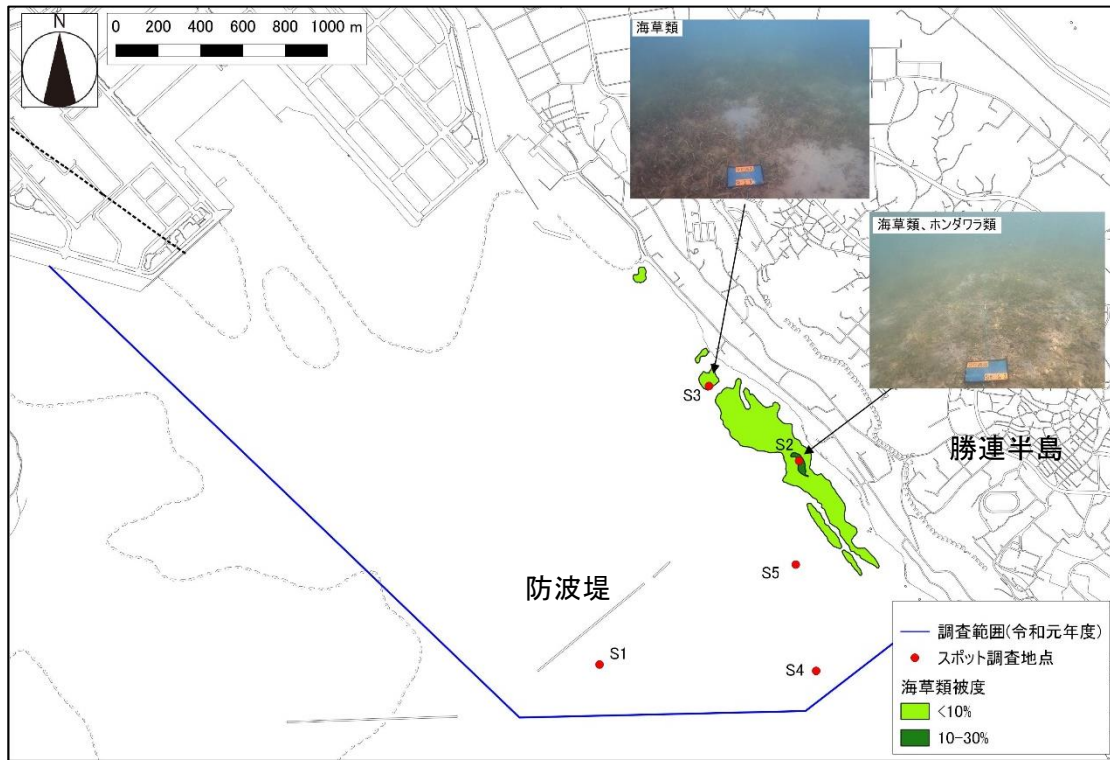


図 2-8-8 (1) 海藻類の分布状況（北部地域：夏季）

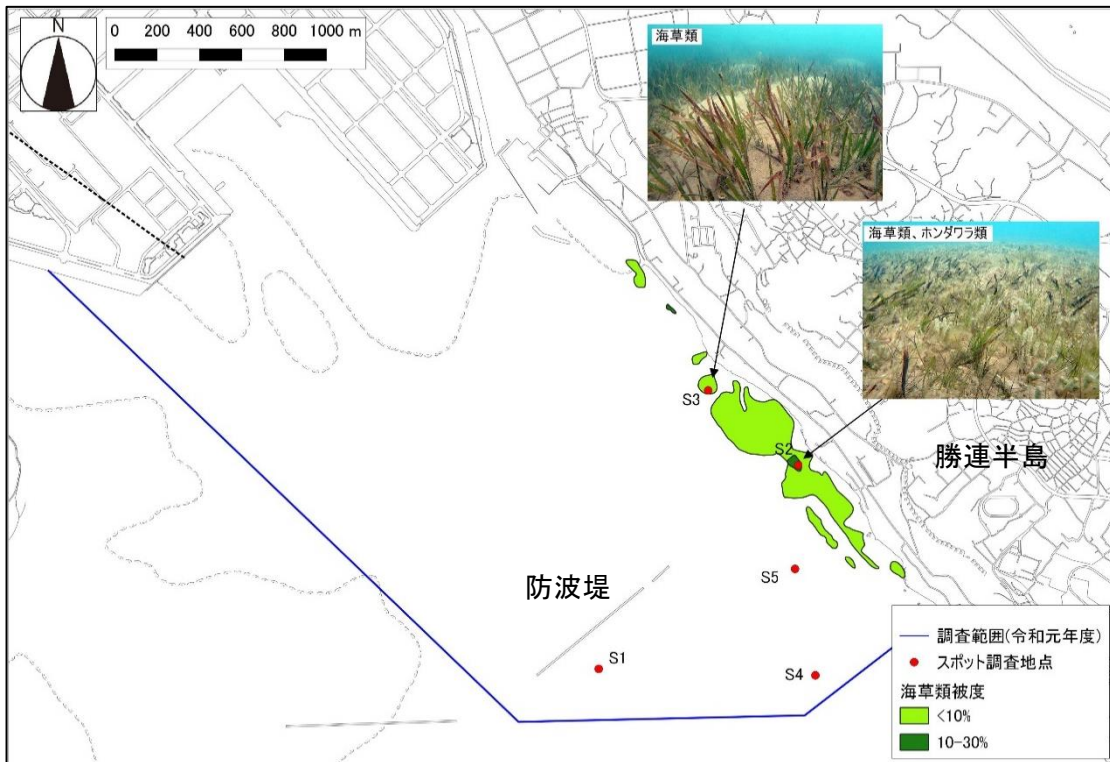


図 2-8-8 (2) 海藻類の分布状況（北部地域：冬季）



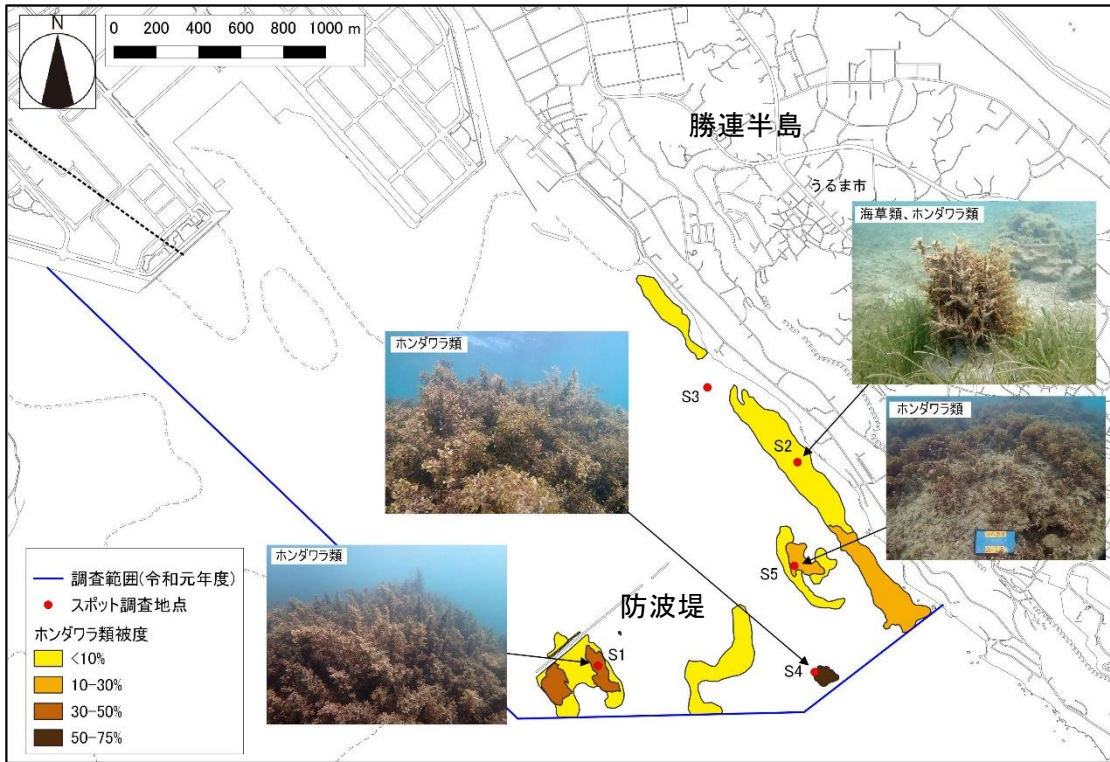


図 2-8-9 (1) ホンダワラ類の分布状況 (北部地域：夏季)

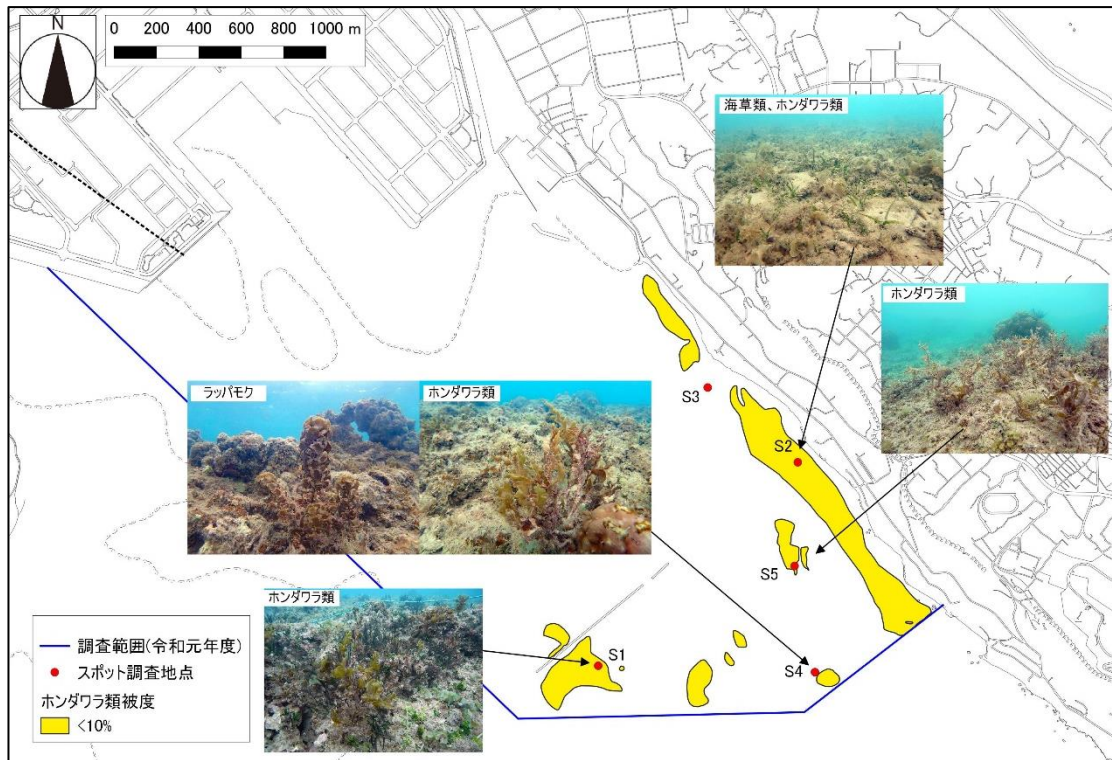


図 2-8-9 (2) ホンダワラ類の分布状況 (北部地域：冬季)

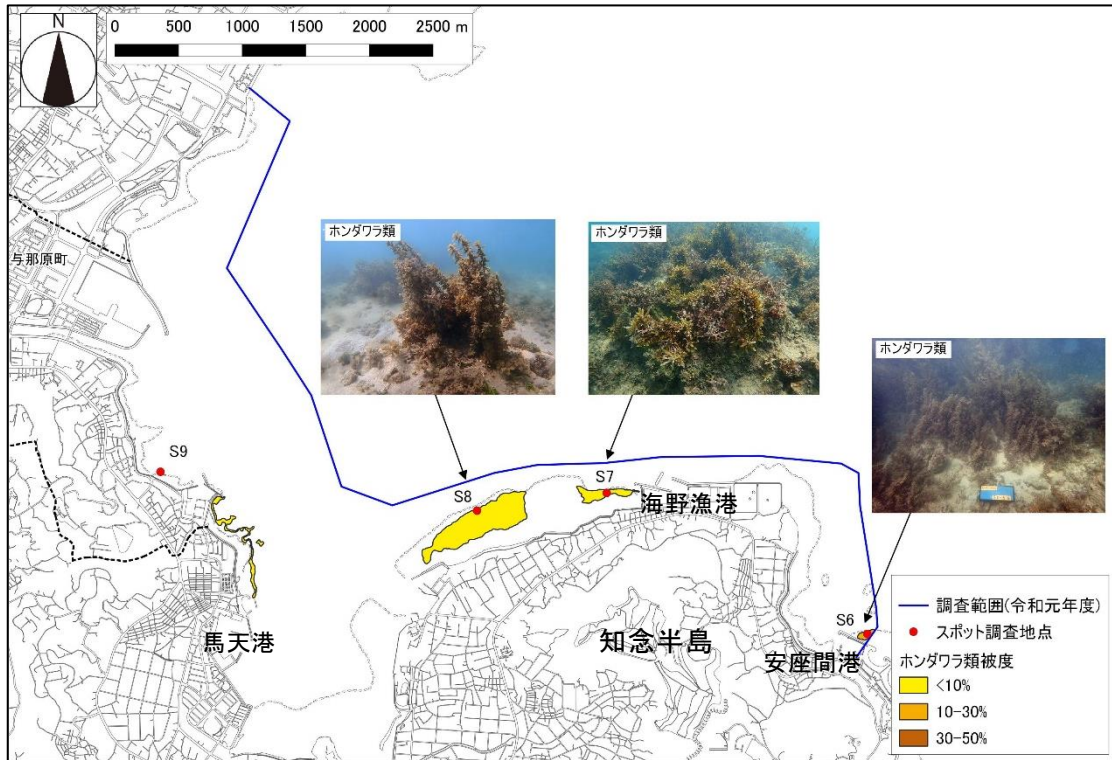


図 2-8-10 (1) ホンダワラ類の分布状況 (南部地域：夏季)

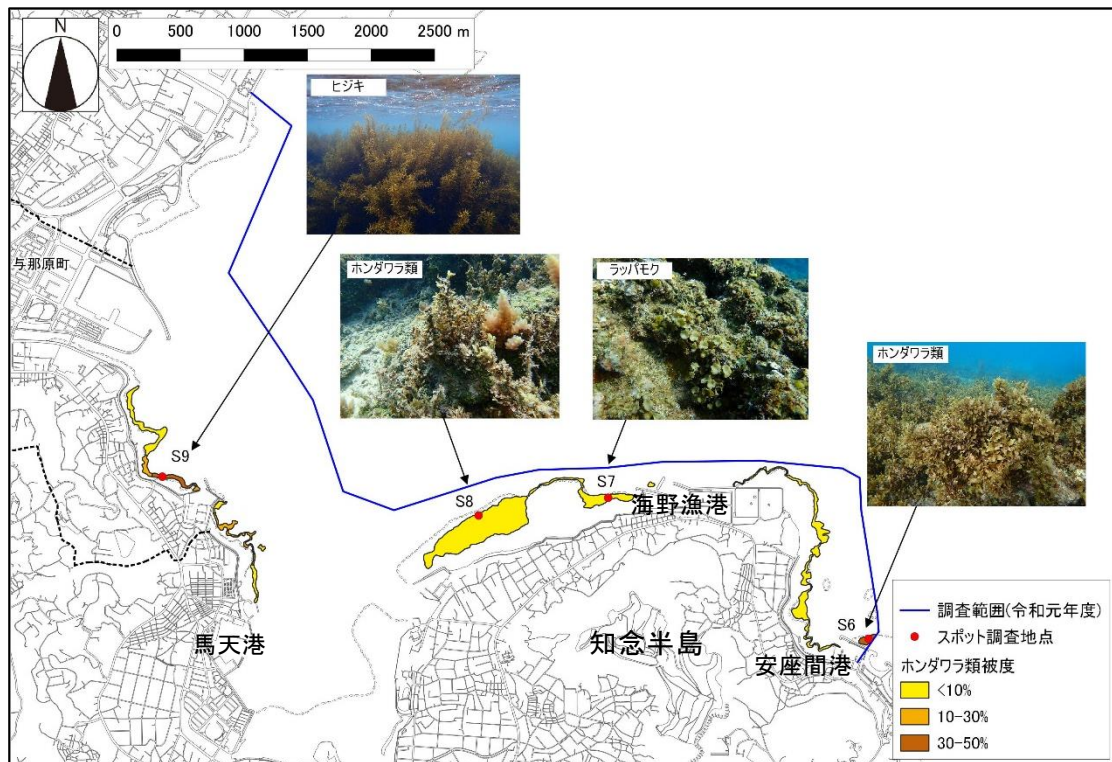


図 2-8-10 (2) ホンダワラ類の分布状況 (南部地域：冬季)



表 2-8-25 海藻草類の出現状況及び地点状況

単位：%

調査地点		St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 7	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	
底質	細砂	30	20	10	80	100	10	25	100	80	90	20	
	礫	70	50	85	20		10	70		20	10	80	
	転石		10	+				5		+		+	
	岩盤		20				80	+					
種類	リュウキュウスガモ	10		15	10	5				5	+	+	
	ウミヒルモ	+							+	+	+		
	ウミジグサ	+			+	+		+	+	+		+	
	マツバウミジグサ	+				+		+	5	+	+	+	
	ベニアマモ	10		5	5	+		+	+	5		5	
	リュウキュウアマモ	+		+	10			10				5	
	ボウバアマモ				+			+		+		5	
	コアマモ										+		
	ホンダワラ属		20	+	+			40	+		+		+
	ヤバネモク	+	+					+	+		+		+
全体被度		25	20	25	25	10	40	20	5	15	5	20	

注) 1. +は被度5%未満を示す。  
 2. 被度は5%単位で示す。

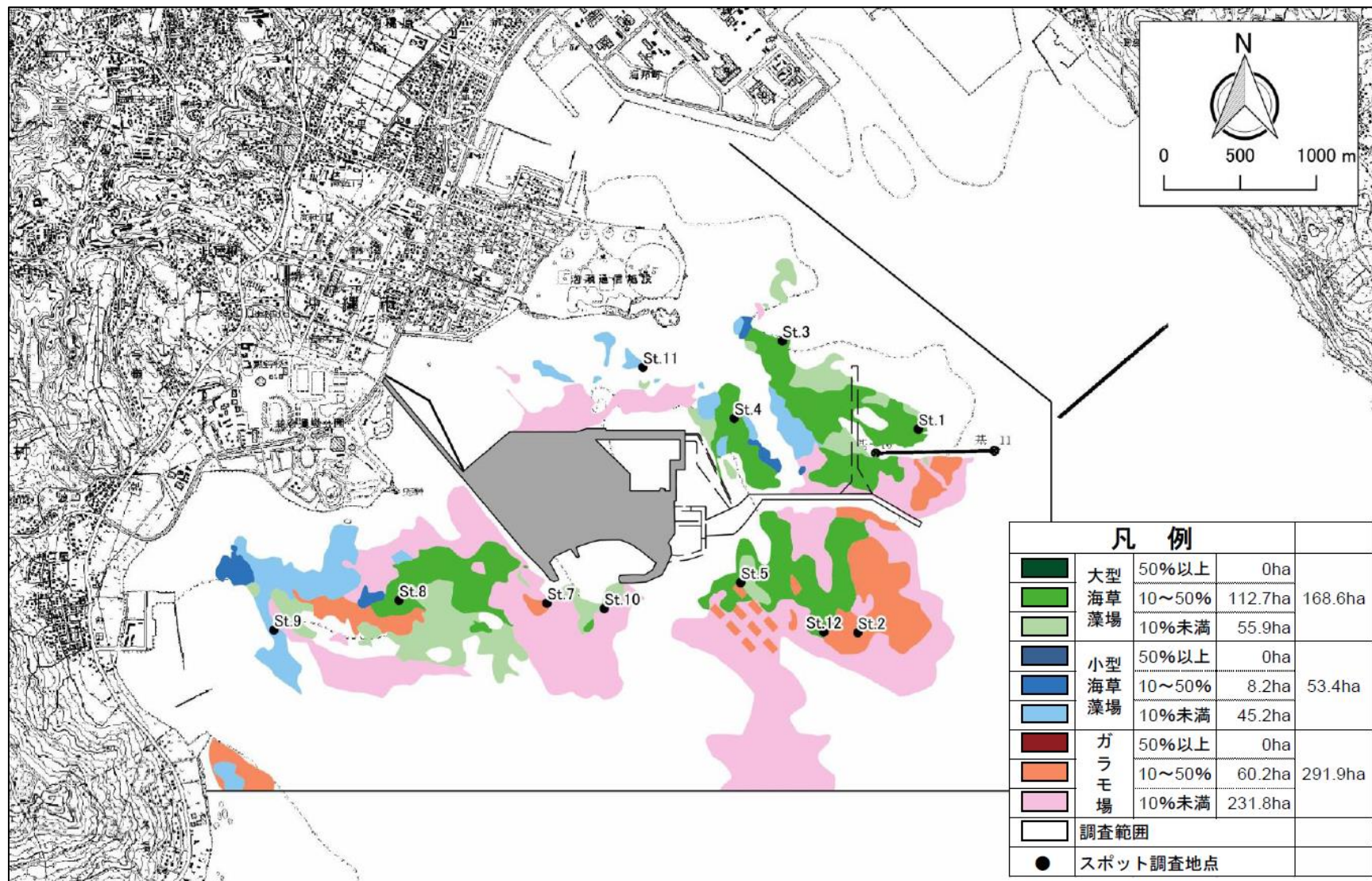


図 2-8-11 海草類及びホンダワラ類（ガラモ場）の分布状況

## 2) 海藻草類（クビレミドロ）

### (ア) 調査概要

クビレミドロは、国内では沖縄島が唯一の産地で、環境省レッドリスト「絶滅危惧Ⅰ類」、レッドデータおきなわ「絶滅危惧Ⅱ類」及び日本の希少な野生生物に関するデータブック「絶滅危惧種」の指定を受けている重要種であるため記載する。

海藻草類（クビレミドロ）の調査概要は、表 2-8-26 に示すとおりである。

表 2-8-26 海藻草類（クビレミドロ）調査概要

調査機関	沖縄総合事務局
調査期間	令和3年3月1,2日
調査地点	図 2-8-12 に示すとおり
調査方法	目視によりクビレミドロの生育分布状況を確認し、光波測距儀による測量で位置を記録した。記録を基に、生育範囲を図示し、面積を算出した。また、生育範囲内の代表的な5調査点で50cm×50cmのコードラートを敷設し、枠内の群体数、上位10群体の長径を計測するとともに、生育状況の写真撮影を行った。

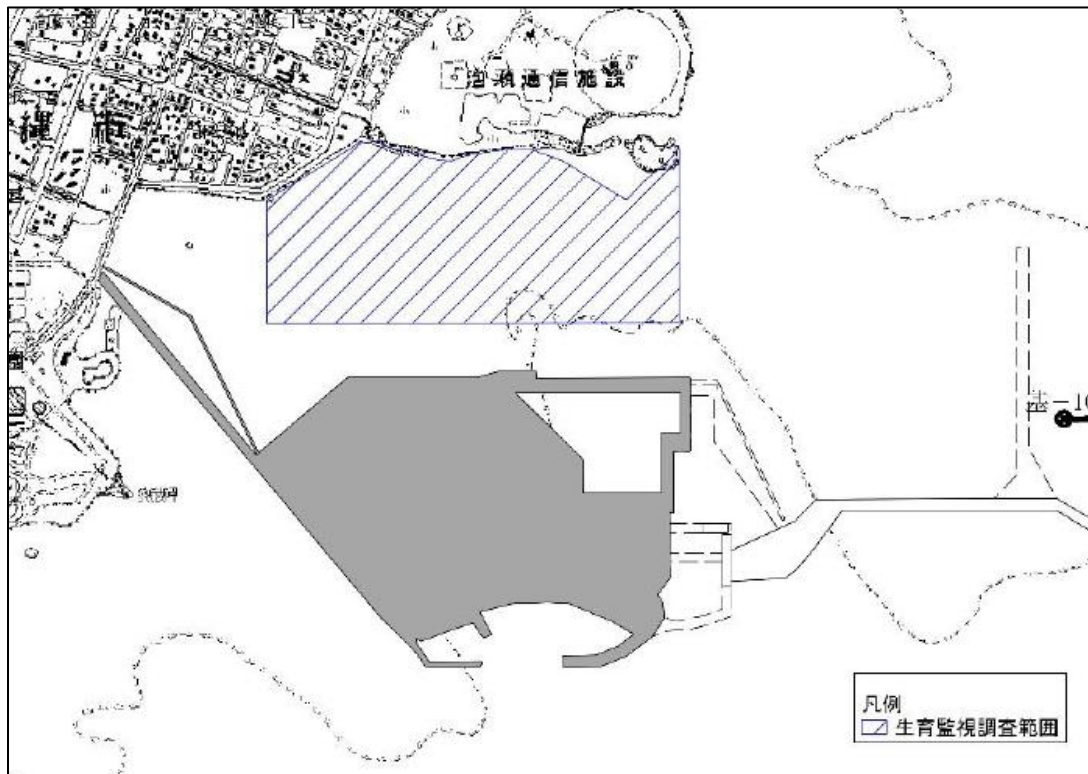


図 2-8-12 調査位置図

(イ) 調査結果

クビレミドロ分布状況を図 2-8-13 に示すとおりである。

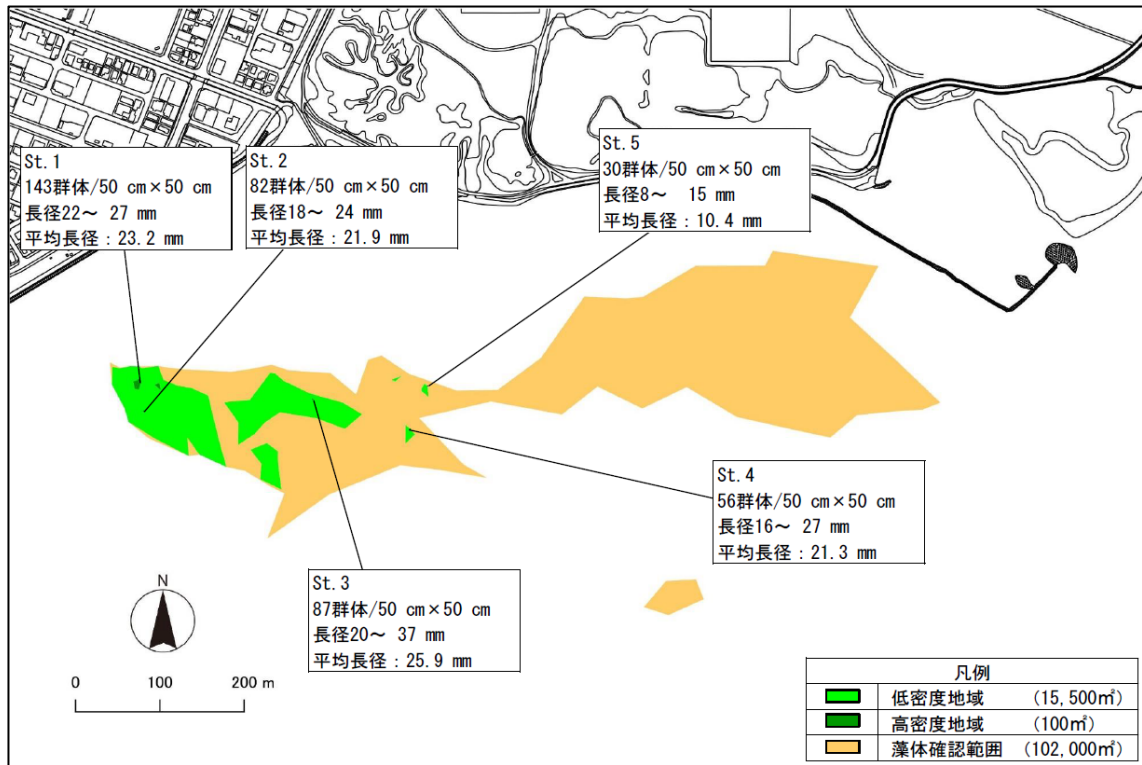


図 2-8-13 泡瀬地区における絶滅危惧種(クビレミドロ)分布状況

(令和3年3月1、2日調査)



## 2-8-2 陸生生物

### (1) 陸生動物

#### 1) 天然記念物

中城湾港周辺において、指名されている文化財保護法に基づく天然記念物は、表 2-8-27 に示すとおりである。

表 2-8-27 中城湾港周辺における天然記念物（陸域生物）

指定主体	種別	No.	名称	指定年月日	備考（所在地など）
国指定	特別天然記念物	1	コウノトリ	昭31. 7. 19	所在地、地域を定めず指定する
		2	アホウドリ	昭37. 4. 19	所在地、地域を定めず指定する
		3	ノグチゲラ	昭52. 3. 15	所在地、地域を定めず指定する
		4	カンムリワシ	昭52. 3. 15	所在地、地域を定めず指定する
	天然記念物	5	アカヒゲ	昭45. 1. 23	所在地、地域を定めず指定する
		6	オカヤドカリ	昭45. 11. 12	所在地、地域を定めず指定する
		7	カラスバト	昭46. 5. 19	所在地、地域を定めず指定する
		8	ジュゴン	昭47. 5. 15	所在地、地域を定めず指定する
		9	ケナガネズミ	昭47. 5. 15	所在地、地域を定めず指定する
		10	トゲネズミ	昭47. 5. 15	所在地、地域を定めず指定する
		11	セマルハコガメ	昭47. 5. 15	所在地、地域を定めず指定する
		12	リュウキュウキンバト	昭47. 5. 15	所在地、地域を定めず指定する
		13	ダイトウオオコウモリ	昭48. 6. 2	所在地、地域を定めず指定する
		14	カンムリウミスズメ	昭50. 6. 26	所在地、地域を定めず指定する
		15	イイジマムシクイ	昭50. 6. 26	所在地、地域を定めず指定する
		16	キシノウエトカゲ	昭50. 6. 26	所在地、地域を定めず指定する
		17	リュウキュウヤマガメ	昭50. 6. 26	所在地、地域を定めず指定する
		18	ヤンバルクイナ	昭57. 12. 18	所在地、地域を定めず指定する
		19	ヤンバルテナゴカガネ	昭60. 5. 14	所在地、地域を定めず指定する
		20	久高島の海岸植物群落 ※平 7. 12. 22 県指定 久高島伊敷浜の海岸植物群落 県指定 久高島カベールの植物群落	平27. 10. 7	南城市知念字久高中原、同久高原、同大浜原、同神谷原
県指定	天然記念物	21	フタオチョウ	昭44. 8. 26	所在地、地域を定めず指定する
		22	コノハチョウ	昭44. 8. 26	所在地、地域を定めず指定する
		23	イボイモリ	昭53. 11. 9	所在地、地域を定めず指定する
		24	クロイワトカゲモドキ(マダラトカゲモドキも含む)	昭53. 11. 9	所在地、地域を定めず指定する
		25	ヨナグニサン	昭60. 3. 29	所在地、地域を定めず指定する
		26	ホルストガエル	昭60. 3. 29	所在地、地域を定めず指定する
		27	ナミエガエル	昭60. 3. 29	所在地、地域を定めず指定する
		28	イシカワガエル	昭60. 3. 29	所在地、地域を定めず指定する
		29	チャーン	平 3. 1. 16	うるま市宇与那城屋慶名
		30	アマミヤマシギ	平 6. 2. 4	所在地、地域を定めず指定する
		31	佐敷町富祖崎海岸のハマジンチョウ群落	昭36. 6. 15	南城市佐敷字富祖崎
		うるま市	天然記念物（植物）	32	クボウグスクの植物群落
沖縄市	天然記念物（植物）	33	古謝のビジュアルにあるアコウ	平21. 3. 27	古謝
北中城村	天然記念物	34	なし		
中城村	天然記念物（植物）	35	泊の大クワディサー	平9. 3. 7	字泊132
西原町	天然記念物（植物）	36	内間御殿のサワフジ（サガリバナ）	平24. 5. 8	字嘉手苜上之松51-1
南城市	天然記念物（植物）	37	新屋のサキシマスオウノキ	昭58. 3. 18	知念字知念972
		38	大殿内のサキシマスオウノキ	昭58. 3. 18	知念字安座真167
		39	大門のサキシマスオウノキ	昭58. 3. 18	知念字安座真178
		40	オキナワヒメウツギ群落	平5. 2. 2	大里
		41	久手堅の大アカギ	平11. 3. 1	知念字久手堅134
		42	知念親川のフクギ群	平17. 3. 1	知念字知念589
	天然記念物（地質）	43	玉泉洞	平4. 3. 28	玉城字前川1336
		44	下上原の鹿化石出土地	平17. 7. 13	知念字知念1214-3 他
与那原町	天然記念物（植物）	45	久葉堂赤木（クファドウアカギ）	平7. 4. 25	字与那原912

出典：沖縄県教育委員会「文化財課要覧（令和2年度版）」

## (2) 鳥類

### 1) 調査概要

鳥類の調査概要は、表 2-8-28 に示すとおりである。

表 2-8-28 鳥類調査概要

調査機関	沖縄県土木建築部港湾課	沖縄総合事務局
調査期間	夏季：令和元年 8 月 30～31 日 秋季：令和元年 11 月 11 日 冬季：令和 2 年 1 月 10 日 春季：令和 2 年 4 月 8 日	春季：令和元年 5 月 夏季：令和元年 8 月 秋季：令和元年 9～11 月毎月調査実施 冬季：令和元年 12～3 月毎月調査実施
調査地点	図 2-8-14 に示すとおり	図 2-8-15 に示すとおり
調査方法	満潮時、干潮時に 30 分間/地点の定点調査を行った。また、繁殖活動状況についても確認調査を行った。 定点調査は、干潮時及び満潮時に定点に立ち、目視観察により種類別個体数や出現位置を記録した。目視観察には、プロミナ（倍率 20 倍程度の望遠鏡）、双眼鏡（倍率 8～10 倍程度）、カウンターなどを使用し、沿岸部においては潮位を考慮した。 調査結果より、渡りの区分及び出現位置のマッピングを行うことにより鳥類の利用状況を把握した。	各調査地点で見晴らしの良い場所を定点として選定し、全地点同時に計画地を含む近傍域に飛来する鳥類の定点観察を実施。満潮時から干潮時まで連続的（約 1 時間毎、原則 6 回）に観察し、出現種、個体数、位置、行動等を記録した。



凡例

● 鳥類



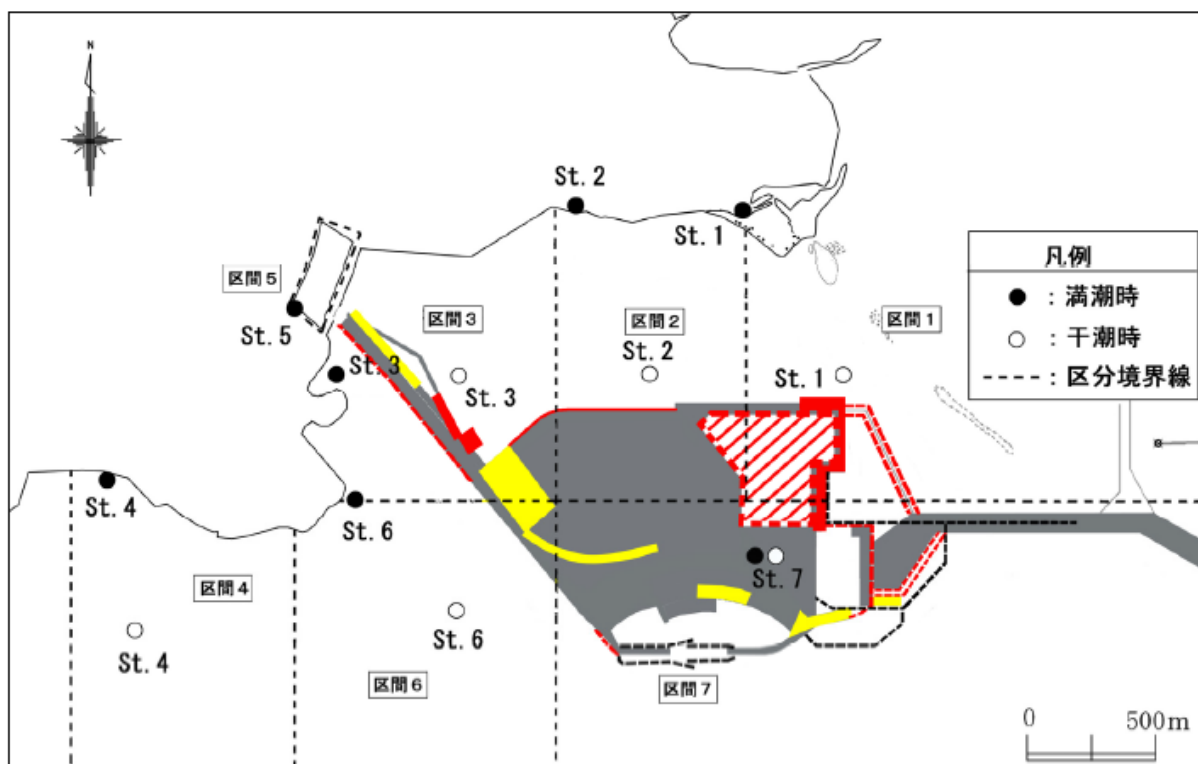
0 1 2 3 km



注：この地図は数値地図（国土基本情報）オンラインを使用した。

図 2-8-14 陸生生物（鳥類）調査地点





出典：第1回中城湾港泡瀬地区環境監視委員会  
委員会資料（平成31年度/令和元年度環境監視調査結果）令和2年7月9日

図 2-8-15 陸生生物（鳥類）調査地点

## 2) 調査結果

定点調査結果は表 2-8-29 に、鳥類の渡り区分は表 2-8-30 に、確認した重要な種は表 2-8-31 に、環境監視調査結果は表 2-8-32 に示すとおりである。

表 2-8-29 (1) 定点調査結果 (夏季)

調査期日：令和元年8月30, 31日

No.	目名	科名	和名	重要な種	渡り区分	調査地点												計
						St. 1		St. 2		St. 3		St. 4		St. 5		St. 6		
						満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	
1	ハト	ハト	カウラバト(ドバト)		帰化種								3		9		2	14
2			キジバト		留鳥	9	3			1			1	8		2		24
3	ベリカン	サギ	ゴイサギ		留・冬	2				1								3
4			アオサギ		冬鳥	2	2						1		1			6
5			ダイサギ		冬鳥	2							1		1	1		5
6			チュウサギ	●	冬鳥	2									2			4
7			コサギ		留・冬	3	3	1							1	1	1	10
8			クロサギ		留鳥							2	1	1		1		5
9	ツル	クイナ	バン		留鳥	1	1											2
10	チドリ	チドリ	ムネブクロ		冬・旅	1		5	4	3		24	22		2	8	7	76
11			コチドリ		冬鳥		1					2	1					4
12			シロチドリ	●	留・冬・旅		4	5	13	7	4		1				3	37
13			メダイチドリ	●	冬・旅								1		1	5	1	8
14			オオメダイチドリ	●	冬・旅									1	2			3
15		シギ	チュウシャクシギ		冬・旅		4					1	2	3	1	1		12
16			アカアシシギ	●	冬・旅	2	1											3
17			コアカアシシギ		冬・旅											2		2
18			アカアシシギ		冬・旅											1		1
19			タカアシシギ	●	冬鳥	1												1
20			キアシシギ		冬・旅		6	4	4	2		1	1		2	2	7	29
21			イソシギ		冬鳥	6	2	2		1		3	1			1		16
22			キョウジョシギ		冬・旅		1	1	1			9					4	16
23			トウネン		冬・旅				2									2
24			ヒバリシギ		冬・旅	1	2											3
25		カモメ	クロハラアジサシ		旅鳥								1			5	18	24
26	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	留鳥	1												1
27	スズメ	カラス	ハシブトガラス		留鳥	8	2					3	1			3		17
28		ツバメ	ツバメ		冬・旅	1	1											2
29			リュウキュウツバメ		留鳥	12	1	2		6		1		1		1		24
30		ヒヨドリ	シロガシラ		帰化種	31	4	5	2	4			2					48
31			ヒヨドリ		留鳥	4	2	3						3	2	2	1	17
32		ウグイス	ウグイス		留鳥	1												1
33		メジロ	メジロ		留鳥	2	8	5		2				4	2	2	2	27
34		セッカ	セッカ		留鳥		1	2		1				2				6
35		ヒタキ	イソヒヨドリ		留鳥	3	3	2		3	3	3	3	5	1	1	1	28
36		スズメ	スズメ		留鳥		3	5	3						1			12
37		セキレイ	ツメナガセキレイ		冬・旅			4										4
38			キセキレイ		冬鳥									1				1
39		カエデチョウ	シマキンバラ		帰化種	7												7
計	6目	17科	39種	7種	-	22種	21種	14種	7種	11種	2種	10種	15種	10種	12種	18種	13種	39種
						102個体	55個体	46個体	29個体	31個体	7個体	51個体	39個体	36個体	19個体	41個体	49個体	505個体

注1：重要な種の詳細は表 2-8-31 に示すとおりである。  
 2：渡り区分は表 2-8-30 に示すとおりである。

表 2-8-29 (2) 定点調査結果 (秋季)

調査期日：令和元年11月11日

No.	目名	科名	和名	重要な種	渡り区分	調査地点												計	
						St.1		St.2		St.3		St.4		St.5		St.6			
						満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮		
1	カモ	カモ	スズガモ		冬鳥										1			1	
2	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)		帰化種										3	2		8	
3			キジバト		留鳥	12				1			2			2		18	
4	カツオドリ	ウ	カワウ		冬鳥					191								191	
5	バリカン	サギ	ゴイサギ		留・冬	4									1		1	6	
6			アカガシラサギ		冬・迷												1	1	
7			アオサギ		冬鳥	2	3					1				2		11	
8			ダイサギ		冬鳥	1	4						1	1	1	1	2	11	
9			チュウサギ	●	冬鳥	1												1	
10			コサギ		留・冬	15	2	1	4					1	1	1		27	
11			クロサギ		留鳥	1				6	1	2	1	1	1			13	
12			カラシラサギ	●	迷鳥												1	1	
13	ツル	クイナ	バン		留鳥	2	3								1			6	
14			オオバン		冬鳥		1											1	
15	チドリ	チドリ	ムナグロ		冬・旅	2	3	2	56		6	28	19				4	120	
16			ダイゼン		冬鳥												2	1	3
17			コチドリ		冬鳥		2					16	8			5		31	
18			シロチドリ	●	留・冬・旅		4		11	6	4		1			14	27	67	
19			メダイチドリ	●	冬・旅							3						3	
20		シギ	タシギ		冬鳥		1											1	
21			チュウシヤクシギ		冬・旅	2	2						1		1	1		7	
22			アカアシシギ	●	冬・旅	4	1											5	
23			アオアシシギ		冬・旅		1											1	
24			キアシシギ		冬・旅		1											1	
25			イソシギ		冬鳥	6	7	2		1	2	2	1	3	1		1	26	
26			キョウジョシギ		冬・旅		1											1	
27	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	冬鳥	1				2				1	3	2	4	13	
28		タカ	ツミ		留鳥		1											1	
29			サシバ	●	冬・旅	1	1											2	
30	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	留鳥	3	1							1	1	1		7	
31	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		冬鳥							1						1	
32	スズメ	カラス	ハシブトガラス		留鳥	2						2		3	2		1	10	
33		シジュウカラ	シジュウカラ		留鳥									3	5			8	
34		ツバメ	ツバメ		冬・旅	1												1	
35			リュウキュウツバメ		留鳥	5	4			5				1				15	
36	ヒヨドリ	シロガシラ	シロガシラ		帰化種	37	21	10	6	2	3	3	2	6		1	3	94	
37		ヒヨドリ	ヒヨドリ		冬・旅	3	3	2	2	2				3	3	3		21	
38		ウグイス	ウグイス		留鳥	2	1				1							4	
39		メジロ	メジロ		冬鳥	2	2					2	2	2	1	2	3	16	
40		ヒタキ	ジョウビタキ		冬鳥							1						1	
41			イソヒヨドリ		留鳥			3	1	3		2	1	1	2			13	
42	スズメ	スズメ	スズメ		留鳥			9		6	8							23	
43		セキレイ	ツメナガセキレイ		冬・旅								1					1	
44			キセキレイ		冬鳥	2									1			3	
45			ハクセキレイ		冬鳥	1		2	4	2	2	5	2	2	2			22	
46	アトリ	マヒワ	マヒワ		冬鳥									10				10	
47		カエデチョウ	シマキンバラ		帰化種			3							10			13	
計	10目	22科	47種	8種	-	24種	23種	12種	7種	11種	8種	14種	13種	19種	18種	13種	11種	47種	
						112個体	70個体	229個体	84個体	36個体	27個体	70個体	41個体	45個体	41個体	35個体	51個体	841個体	

注1：重要な種の詳細は表 2-8-31 に示すとおりである。

注2：渡り区分は表 2-8-30 に示すとおりである。

表 2-8-29 (3) 定点調査結果 (冬季)

調査期日：令和2年1月10日

No.	目名	科名	和名	重要な種	渡り区分	調査地点												計
						St.1		St.2		St.3		St.4		St.5		St.6		
						満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	
1	カモ	カモ	カルガモ		留・冬	16	37											53
2			ハシビロガモ		冬鳥	2												2
3	ハト	ハト	カラバト(ドバト)		帰化種								30					30
4			キジバト		留鳥	1	1					1	1	1				5
5	カツオドリ	ウ	カワウ		冬鳥		2	44				1	2		1	10		60
6	ペリカン	サギ	リュウキュウヨシゴイ	●	留鳥	1												1
7			ゴイサギ		留・冬	1												1
8			アオサギ		冬鳥	2										1		3
9			ダイサギ		冬鳥	1	2				1					2	1	7
10			コサギ		留・冬	3	4		1			1	1	1	2	1		14
11			クロサギ		留鳥	1	1			2	1	1			1			7
12	ツル	クイナ	バン		留鳥	6	4											10
13	チドリ	チドリ	ムナグロ		冬・旅	3	4					24	22				2	55
14			ダイゼン		冬鳥											2	1	3
15			コチドリ		冬鳥	6	4					3	1					14
16			シロチドリ	●	留・冬・旅				2	2						26	24	54
17			メダイチドリ	●	冬・旅											2	3	5
18		シギ	タシギ		冬鳥	1	1											2
19			チュウシャクシギ		冬・旅							1		1	2	1		5
20			アカアシシギ	●	冬・旅	1	1											2
21			アオアシシギ		冬・旅											11	10	21
22			イツシギ		冬鳥	2	2	1		2	2	5	1	4	4	2		25
23		カモメ	ズグロカモメ	●	冬鳥				1									1
24	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	冬鳥	1	2	2					1		4	1		13
25		タカ	サンバ	●	冬・旅		1									1		2
26	ブッボウソウ	カワセミ	カワセミ	●	留鳥	2									1	2	1	6
27	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		冬鳥											1		1
28	スズメ	カラス	ハシブトガラス		留鳥		1							2	2	1	9	15
29		シジュウカラ	シジュウカラ		留鳥												1	1
30		ツバメ	ツバメ		冬・旅					1								1
31			リュウキュウツバメ		留鳥	2	2	3			3		2					12
32		ヒヨドリ	シロガシラ		帰化種	7	3	4			3	2						19
33			ヒヨドリ		冬・旅	1		1		1	7	4	9	3	4	2		32
34		ウグイス	ウグイス		留鳥	3	2			1	1	1	1	1		1		11
35		ムシクイ	ムジセッカ		冬・旅		1											1
36		メジロ	メジロ		冬鳥	4	6	6		1		2	3	7	1	7	6	43
37		セッカ	セッカ		留鳥					1								1
38		ヒタキ	シロハラ		冬鳥	6			2		1			3				12
39			ノゴマ		冬鳥	4	1											5
40			イトヒヨドリ		留鳥	1	1	2	2	3	1	2	3	1	3	1		20
41		スズメ	スズメ		留鳥		3	1					4					8
42		セキレイ	ハクセキレイ		冬鳥			1		1	4	4	3	2	3			18
計	10目	23科	42種	8種	-	25種	23種	10種	6種	7種	10種	12種	15種	11種	14種	18種	14種	42種
						78個体	86個体	65個体	10個体	12個体	18個体	53個体	50個体	61個体	27個体	78個体	63個体	601個体

注1：重要な種の詳細は表 2-8-31 に示すとおりである。

注2：渡り区分は表 2-8-30 に示すとおりである。



表 2-8-29 (4) 定点調査結果 (春季)

調査期日：令和2年4月8日

No.	目名	科名	和名	重要種	渡り区分	調査地点												計	
						St.1		St.2		St.3		St.4		St.5		St.6			
						満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮	満潮	干潮		
1	ハト	ハト	キジバト		留鳥	16	4	3	1	2		1		4		1		32	
2	カツオドリ	ウ	カワウ		冬鳥	1						1						2	
3	ペリカン	サギ	アオサギ		冬鳥	3	1								1			5	
4			ダイサギ		冬鳥	6	16								1	2	4	29	
5			チュウサギ	●	冬鳥			2											2
6			コサギ		留・冬	6	11	1	8		1	1	1	1	3	1	3		37
7			クロサギ		留鳥					2		1		1	1				5
8			ツル	クイナ	バン		留鳥	2	1										3
9			チドリ	チドリ	ダイゼン		冬鳥											4	
10	コチドリ				冬鳥	2	2					1						5	
11	シロチドリ	●			留・冬・旅			2	1	3		2	1			4	2	15	
12	メダイチドリ	●			冬・旅												2		2
13	オオメダイチドリ	●			冬・旅												1		1
14	セイタカシギ	セイタカシギ			●	冬鳥	2												2
15	シギ	チュウシャクシギ				冬・旅	1						1	1	1	2	1		7
16		アオアシシギ				冬・旅		2									7	6	15
17		タカブシギ	●	冬鳥		3												3	
18		イソシギ		冬鳥	2	3	1	1	5	1	4		3	2	2	1		25	
19	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	冬鳥	1									1	1	3		
20	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	留鳥								1	1			2		
21	スズメ	カラス	ハシブトガラス		留鳥	3	1					3		1	3		13		
22		シジュウカラ	シジュウカラ		留鳥	2	2						1				5		
23		ツバメ	ツバメ		冬・旅								1					1	
24			リュウキュウツバメ		留鳥	4	4	1			1	2	1				2	15	
25		ヒヨドリ	シロガシラ(亜種不明)		帰化種	7	10	8	4	6	2	2		3	2	2	4	50	
26			ヒヨドリ		冬・旅	4	3	4	2	3	2	8	2	6	7	3	3	47	
27		ウグイス	ウグイス		留鳥	2					1		1					4	
28		メジロ	メジロ		冬鳥	3	3	2	1	4		2	2	7	5	4	4	37	
29		セッカ	セッカ		留鳥	3	3	1		6	3	1	4			3	2	26	
30		ヒタキ	シロハラ		冬鳥									1				1	
31			イソヒヨドリ		留鳥		1	1	1	2	2	1	2	1	3			14	
32		スズメ	スズメ		留鳥	3	7	14	4	5	6		4					43	
33		セキレイ	キセキレイ		冬鳥								1					1	
34			ハクセキレイ		冬鳥								2		1			3	
計	8目	19科	34種	8種	-	20種	18種	12種	9種	11種	8種	18種	10種	14種	12種	15種	12種	34種	
						73個体	77個体	40個体	23個体	39個体	18個体	35個体	19個体	32個体	31個体	38個体	34個体	459個体	

注1：重要な種の詳細は表 2-8-31 に示すとおりである。  
 注2：渡り区分は表 2-8-30 に示すとおりである。

表 2-8-30 鳥類の渡り区分

留鳥	一年中同一地方に生活し、季節移動をしない種。
夏鳥	夏季に沖縄を訪れ繁殖し、秋季に越冬地に戻る種。
冬鳥	秋季に沖縄を訪れ越冬し、春季に繁殖地に戻る種。
旅鳥	秋季と春季の渡りの途中に、日本に立ち寄る種。
迷鳥	平常は生息も渡来もしないが、偶然の機会により現れる種。
留・冬	留鳥と冬鳥の両形式を取る種。
夏・旅	夏鳥と旅鳥の両形式を取る種。
冬・旅	冬鳥と旅鳥の両形式を取る種。
冬・迷	冬鳥と迷鳥の両形式を取る種。
旅・迷	旅鳥と迷鳥の両形式を取る種。
留・冬・旅	留鳥と冬鳥と旅鳥の各形式を取る種。
帰化種	人間の媒介により本来生息しない他の地域に持ち込まれ、繁殖・定着している種。外来種。

出典：「改訂版 沖縄の野鳥、沖縄野鳥研究会 2010年」

表 2-8-31 確認した重要な種

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期				選定状況				
					夏季	秋季	冬季	春季	天然記念物	種の保存法	環境省 RL	沖縄県 RDB	
1	ペリカン	サギ	リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>			○					NT	NT
2			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○	○		○				NT	NT
3			カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>		○							NT
4	シギ	チドリ	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○	○	○				VU	VU
5			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○	○	○	○				国際	
6			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	○			○				国際	
7			セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>				○					VU
8		シギ	アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	○	○	○					VU	VU
9			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	○			○				VU	VU
10		カモメ	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>			○				VU	VU	
11	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		○	○	○				NT	NT
12		タカ	サシバ	<i>Butastur indicus</i>		○	○					VU	VU
13	フッボウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○	○					NT
計	4目	8科	13種		7種	8種	8種	8種	0種	2種	9種	11種	

注：○は出現状況を表す。

(重要な種の選定基準)

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)により選定。

天然記念物：「文化財保護法または文化財保護条例」により国、沖縄県により選定。

環境省 RL：「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について、環境省 令和2年3月27日」に記載。

沖縄県 RDB：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ-第3版、沖縄県2017年」に記載。

(略号)

国 → 国指定天然記念物

県 → 沖縄県指定天然記念物

国際 → 国際希少野生動植物種

CR+EN → 絶滅危惧 I 類(絶滅の危機に瀕しているもの)

CR → 絶滅危惧 IA 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

EN → 絶滅危惧 IB 類(IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU → 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大しているもの)

NT → 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱なもの)

LP → 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

表 2-8-32 環境監視調査結果（鳥類：鳥類全種、シギ・チドリ類）

区 分		季節	対照値(範囲)	監視結果 (秋季～冬季)	比較
全種	総種類数	秋季～冬季	69～74	85～89	上回る
	最大個体数	秋季～冬季	1,812～2,048	3,049～4,926	上回る
シギ・チドリ類	総種類数	秋季～冬季	22～27	24～28	範囲内
	最大個体数	秋季～冬季	1,376～1,499	1,193～2,532	満足して いた

### (3) 陸生植物

#### 1) 植生

中城湾港周辺における現存植生図は、図 2-8-16 に示すとおりである。

なお、特定植物群落の分布は、図 2-8-17 に示すとおりである。

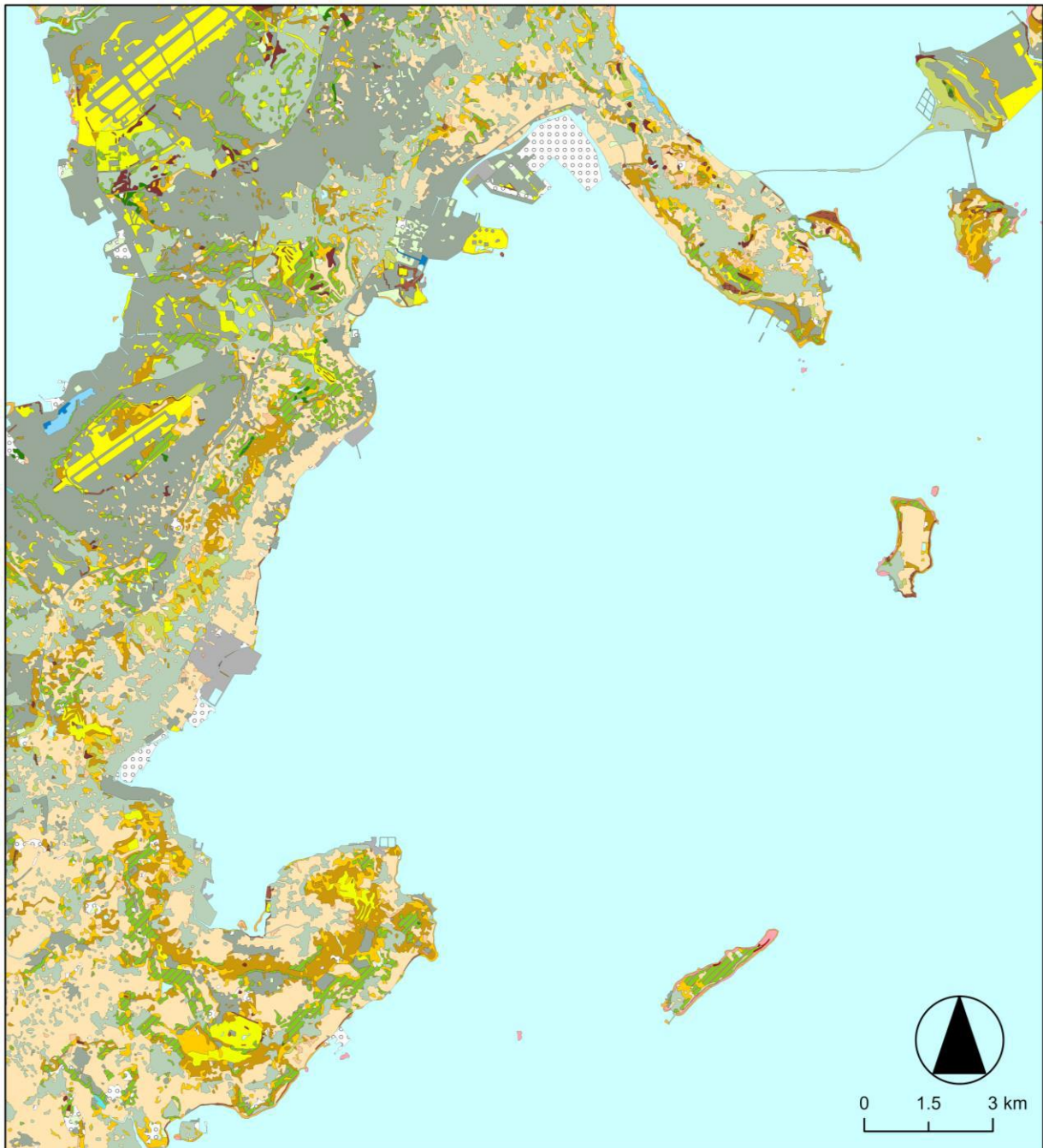
#### 2) 保安林

中城湾港周辺における森林法に基づく保安林の指定状況は、図 2-8-18 に示すとおりである。

#### 3) 天然記念物

中城湾港周辺における文化財保護法に基づく天然記念物（植物）は表 2-8-27 に示すとおりである。





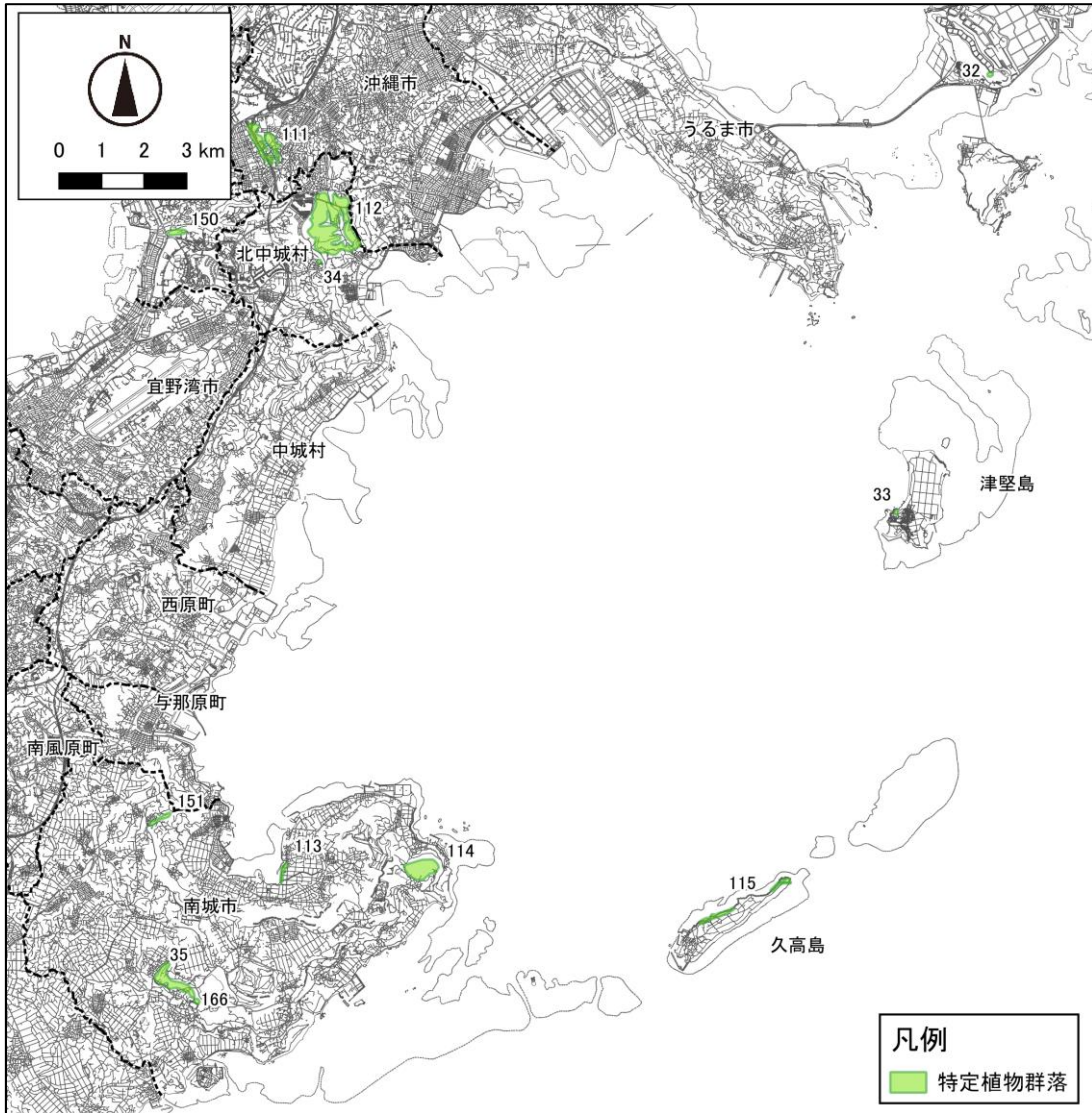
凡例

340302アカテツ・ハマビワ群集	390200アダン群団	540901ギンネム群落	570400水田雑草群落
350106オキナワシキミズダジ群集	400702ボチョウジーイジュ群落	540904モクマオウ類植林	570500放棄水田雑草群落
350109オキナワテイショウソウマテバシ群集	400703ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落	540905ソウシユ植林	580100市街地
350200ヒロウ群落	411200ハドノキウラジロエノキ群団(二次林)	560100ゴルフ場・芝地	580101緑の多い住宅地
360100ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団	420300リュウキュウマツ群落(VII)	560200牧草地	580200残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
360102ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群落	451100ナガバカニクスラススキ群団	570100路傍・空地雑草群落	580300工場地帯
360103ガジュマルークロヨナ群集	470400ヨシラス	570101放棄畑雑草群落	580400造成地
370200マンゴローブ群落	490700ハマニガナークロイワザ群団	570200果樹園	580600開放水域
390100ソテツ群落	530000隆起珊瑚礁植生	570300畑雑草群落	580700自然裸地

出典：「第3回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」（環境省生物多様性センター）

([http://gis.biodic.go.jp/webgis/?\\_ga=2.61448168.575709228.1629449501-1995381717.1590632162](http://gis.biodic.go.jp/webgis/?_ga=2.61448168.575709228.1629449501-1995381717.1590632162))

図 2-8-16 現存植生図



番号	件名	選定基準
33	クボウ城のタブノキ群落	E
34	仲順御嶽の植生	E
111	山内地内の谷間の植生	E
112	北中城渡口谷間の植生	G・H
113	富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落	B・D・G・H
114	斎場御嶽とその周辺部の植生	D・G
115	久高島クボウの御拝所カペールのピロウ林	D・G
151	大里城跡の植生	E

注1: 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

記号	選定基準
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

2: 資料「第3回 自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」(平成元年: 環境庁)

図 2-8-17 特定植物群落の分布



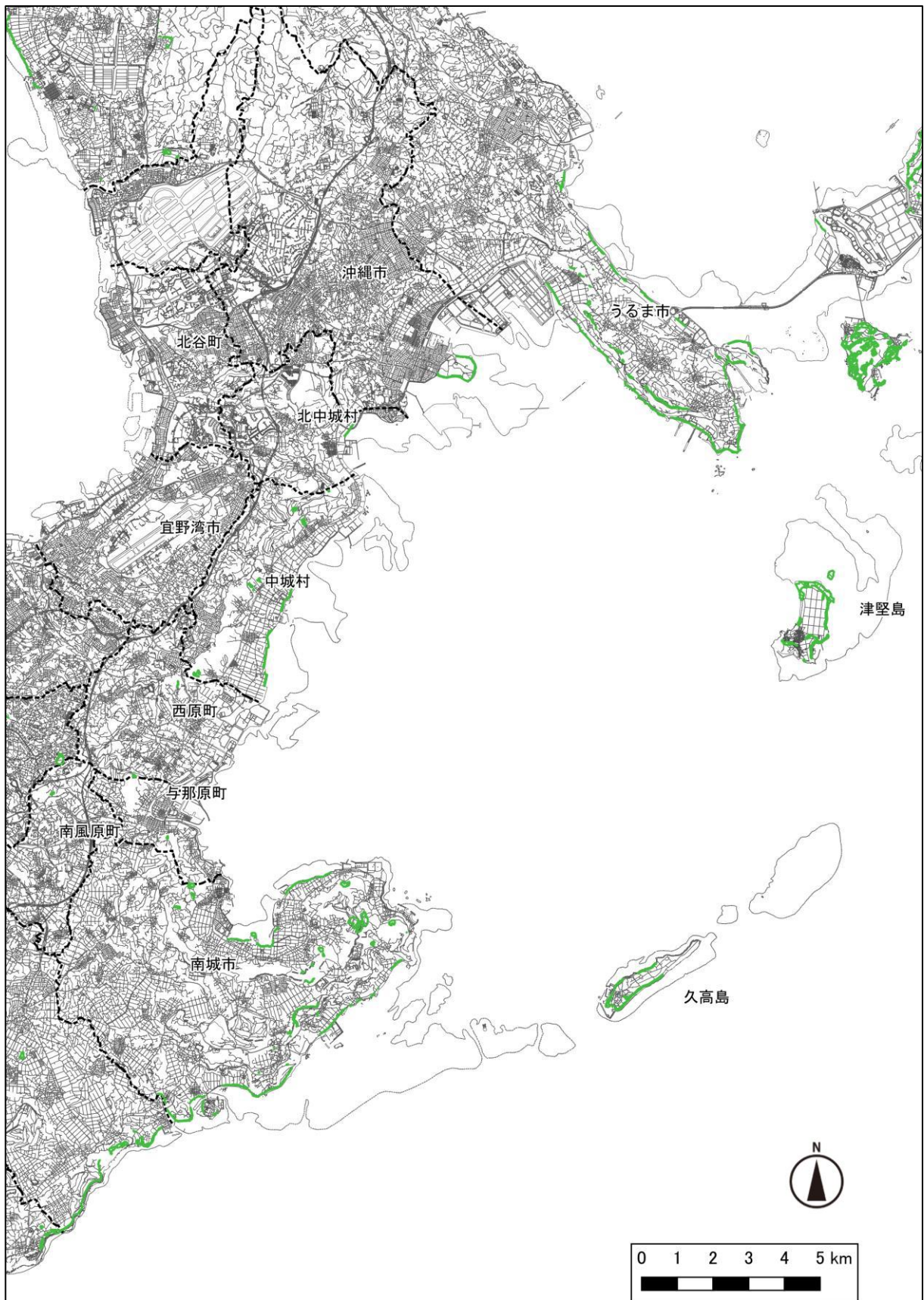


図 2-8-18 保安林の指定状況

## 2-8-3 生態系

### (1) 干潟、サンゴ類、藻場の現況

中城湾港周辺の干潟の分布状況は、2-8-1 海生生物 (5) 魚類 2) 魚類 (トカゲハゼ)、(6) 潮間帯生物、(8) 海藻草類 2) 海藻草類 (クビレミドロ) に示すとおりである。特にトカゲハゼは新港地区、佐敷東地区の干潟で多く確認されている。また、クビレミドロは泡瀬地区の干潟で確認されている。

中城湾港周辺のサンゴ類の分布状況は、2-8-1 海生生物 (7) サンゴ類に示すとおりであり、藻場の分布域よりさらに沖合側に帯状に分布しており、被度 5%未満の分布域が多く見られた。

中城湾港周辺の藻場の分布状況は、2-8-1 海生生物 (8) 海藻草類に示すとおりであり、干潟域よりも沖合側に分布し、海草類の藻場 (アマモ場)、ホンダワラ類の藻場 (ガラモ場) が陸域の沿岸に帯状に分布しており、被度 10%未満の分布域が多く見られた。

### (2) 注目種

#### 1) 注目種の選定

生物の調査結果から地域を特徴づける生態系の特性に応じて、生態系の食物連鎖の上位に位置する上位性、地域の生態系の特徴を表す典型性、地域及び国内の生態系における希少性の観点から、表 2-8-33 に示す種を注目種として選定した。

表 2-8-33 注目種の選定

種名	選定基準	選定理由
ミサゴ	上位性	当該海域の生態系における高次捕食者である。
シギ・チドリ類	上位性 典型性	当該海域における主要な生物であり、浅海域に多数の個体が生息する。
イボタマキビ (干潟生物)	典型性	当該海域における主要な定着性生物であり、干潟域に多数の個体が生息する。潮流や水質、底質環境との関連が強いと考えられる。
トカゲハゼ	特殊性	当該海域における泥質干潟 (主に佐敷地区、新港地区) に分布し、中城湾全体の自然保護の視点から重要な種である。潮流や水質、底質環境との関連が強いと考えられる。
クビレミドロ	特殊性	当該海域における砂質干潟 (主に泡瀬地区) に分布し、国内では沖縄島が唯一の産地である重要な種である。潮流や水質、底質環境との関連が強いと考えられる。

## 2) 注目種の生態

### (ア) ミサゴ

ミサゴ科の鳥類。日本では沖縄を除いてほぼ全国的に繁殖している。県内では越夏個体もしばしば見られるが、営巣確認がされておらず、主として冬鳥であると考えられる。少数が県内各地の海岸で越冬する。海岸や大きな河川、ダム湖などで採食するため行動圏は広い。主に魚類を食べる。

また、環境省レッドリスト及びレッドデータおきなわで「準絶滅危惧」に選定されている。

### (イ) シギ・チドリ類

シギ科とチドリ科鳥類の総称。多くの種は、春と秋の渡りの時期に、繁殖地と越冬地の間を移動する途中で日本の干潟や河口などの湿地に飛来する。

### (ウ) イボタマキビ（干潟生物）

タマキビ科の貝。殻は螺塔高く、螺層には2列の大きな白いいぼ列をのせた螺肋と、細かい間肋がある。殻底の螺肋にも弱い顆粒が現れることがある。

房総半島・対馬以南に分布する。波当たりの強い岩礁地・飛沫帯を生息場所とする。

### (エ) トカゲハゼ

ハゼ科の魚類で、日本では沖縄島の中城湾沿岸及び大浦湾沿岸のみに生息する。内湾の泥質干潟に生息孔を掘って生活する。半陸生性で、日中の干潮時には干出域を這いまわって摂餌等の活動を行い、冠水時には生息孔に潜る。

また、環境省レッドリスト及びレッドデータおきなわで「絶滅危惧 IA 類」に選定されている。

### (オ) クビレミドロ

海産の藻類で、形態は多核性糸状体、体は濃緑色である。沖縄県内では沖縄島に分布している。比較的静穏な湾内や礁池内で、潮間帯下部の安定した砂混じりの細砂底に生育する。生育地またはその周辺には、海草のマツバウミジグサやウミヒルモ、コアマモなどが生育する。

また、環境省レッドリストでは「絶滅危惧 I 類」、レッドデータおきなわでは「絶滅危惧 II 類」に選定されている。